

## 「炎の塔」って知っていますか？

6月28日（金）18:00より函館国際ホテルで、中央大学主催「高大接続懇談会」が開催されました。最近、中央大学への進学者が多いので、遺愛からは進路指導部を中心に校長・教頭含めて8名の先生方が参加しました。

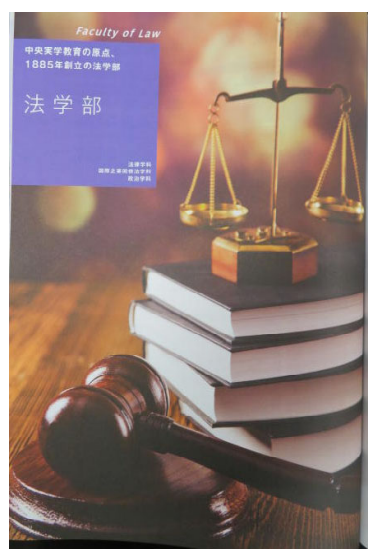
第1部では福原紀彦学長の開会のご挨拶のあと、新学部である国際経営学部・国際情報学部の概要の説明があり、「2021年度入試以降の入学選抜・高大接続の課題」と題して、遺愛の佐々木進路指導部長、函館中部、函館稜北、札幌光星の進路指導部長そして中央大学の入試課長がパネリストとなって、議論を深めました。

第2部では、中央大学学長、国際経営学部長と函館地区出身の3名の中央大学生がパネリストとなって「中央大学の教育の特色と学生生活について」の紹介がありました。学生3名中2名が遺愛の卒業生で、2人とも法学部法律学科に所属し、「炎の塔」で勉強し充実した日々を過ごしているようです。

「炎の塔」とは中央大学多摩キャンパスの学生研究棟のことで、240席の定席を有し、室員は、日曜日や祝日も朝8時から夜11時まで利用できるという恵まれた環境のもと、法科大学院上位校や司法試験予備試験、司法試験に合格するという共通の目標に向かい、相互に切磋琢磨しながら学修に励んでいるそうです。研究室では、司法試験合格者や法科大学院の在学生・修了生などが中心となって指導に当たり、少人数で行うゼミや個人指導により、確実に実力をつけていくことができるそうです。毎年、多くの司法試験合格者を出す中央大学の秘密は、この「炎の塔」にあるようです。昨年、司法試験に合格した遺愛の卒業生も、この「炎の塔」で勉強していたそうです。中央大学の法学部の学生が誰でも利用ではなく、いくつかの試験をくぐりぬけた学生が所属し、個人で利用できる机やロッカーの使用権を得て、勉強しているそうです。

中央大学の法律学部法律学科の学部生数は全員で3,623人（2019年5月現在）ですが、そのなかの240人だけが使用できるということですので、倍率15倍になります。遺愛の卒業生は、大学でも頑張っているんだなどちよっぴり誇らしく思いました。

2019年6月29日（土）



2020年度中央大学パンフレットより